

令和6年2月10日（土）

令和5年度全国健康づくり推進学校優秀校

表彰を受けました。

令和6年2月10日（土）に東京都文京区の日本医師会館で公益法人 日本学校保健会から「令和5年度全国健康づくり推進学校優秀校」の受け、表彰状とトロフィーをいただきました。受賞は「具体的な健康課題について、学校・家庭・地域社会が連携し、解決に向けて成果を挙げている学校」に対して行われ、**最優秀校1校、優秀校2校の中の1校に選ばれ、大変光栄なことと思っています。**本校は令和2年度から「カリキュラム・マネジメントを活用した社会に開かれた防災学習～総合的な学習『日比崎サバイバル・プロジェクト（通称サバプロ）』～」に取り組んできました。今年度の11月21日に日本学校保健会の方が審査のために来訪され、サバプロの授業を視察されました。当日は3つの団ごとに、サバプロリーダーが授業を進めて12月11日のサバプロ体験学習のための準備や事前の学習を行いました。授業参観後、審査の先生方が「リーダーの準備や動きがとても良かった。また話し合い活動では、一人一人が主体的に参加し、自分の言葉で語っていた。ぜひ全国に発信して欲しい。」と述べられました。**生徒の姿が評価されての受賞であったと思います。**大変嬉しい受賞となりました。また、サバプロの取組では、この4年間、尾道市役所、尾道消防署など関係機関やコミュニティスクールの学校運営協議会委員、校区内の町内会、PTAの皆様とコラボして一緒に創り上げてきました。その意味でも**日比崎地区の皆様と一緒に喜び合いたいと思います。**





カリキュラム・マネジメントを活用した社会に開かれた防災学習 ～総合的な学習「日比崎サバイバル・プロジェクト（通称サバプロ）」～

1 学校紹介

本校は、昭和34年4月に開校し、今年開校65年を迎える。校区内の小学校は日比崎小学校だけの1小・1中の中学校区である。校区は尾道駅の北側から尾道水道の海岸部を含む市街地と学校の北側に位置する市内最大の団地が主な校区である。学校規模は10学級（うち特別支援学級2学級）、生徒数269人（令和5年5月現在）の中規模校である。学校は市街地と丘陵地にある団地の間に位置している。



今年度から校区の日比崎小学校と一緒に日比崎地域コミュニティ・スクールとなり、地域の学校として新たな取組を進めている。

2 学校経営方針

右の図は本校のカリキュラム・マネジメントのイメージ図である。本校では図のようにつながり合う歯車として考え、教育活動を行っている。



カリキュラム・マネジメントのイメージ図

一つ一つの歯車が回ることで、他の歯車が回り、教育活動が絡み合い進んでいくイメージである。また、この歯車にも意味を持たせており、真ん中の赤い歯車は、学校行事「赤船祭」と総合的な学習の時間の防災学習「日比崎サバイバル・プロジェクト」、通称「サバプロ（以下「サバプロ」とする。）」である。この二つを本校のコアカリキュラムに設定し、生徒が他の教科・領域で習得した知識や技能を活用する場として、学校全体で取組を進めてきた。

「サバプロ」については、学校経営全体構想図において、「学びの変革」重点目標に位置づけ、令和2年度～4年度までの3年間かけてプロジェクト型学習として内容の改善を繰り返してきた。この3年間で、課題発見・解決学習として一定の形はできたが、コロナ禍の中で地域との連携による社会に開かれた教育課程づくりがなかなか進まなかった。今年度は、新型コロナウイルスが5月には分類と取扱いが変更になったことと、本校がコミュニティ・スクールになったことから、学校経営全体構想図を「VISION（目標）」と「コミ

ユニティ・スクールによる ATTEMPT（企て）」の構成にし、その取組のトップに、「サバプロ」を位置づけ、地域の教育力をさらに活かそうと取り組んでいる。

3 健康づくりの推進体制

(1) 校内指導体制の整備と推進組織の状況

学校経営構想図「知・徳・体の調和」の項で「健やかな体」として本年度の取組に4つ（①体力・運動能力の向上（部活動の活性化）②健康教育・食育の充実③with コロナの感染対策④基本的な生活習慣の確立）を位置付けるとともに、次のような体制で取り組んでいる。

① 生徒指導部「チーム・ポジティブ」：生徒指導部は、通称「チーム・ポジティブ」と呼び、生徒指導主事をキャップとしている。キャップを統括者として7人が所属。「保健指導・学校保健」「教育相談」「避難訓練・防災学習」「環境美化・清掃指導」を担当している。保健指導は保健主事が担当し、教育相談は教育相談コーディネーターが担当している。

② 研究部「チーム・ラボ」：通称「チーム・ラボ」と呼び、研究主任を統括者として5人が所属。主に「カリキュラム・マネジメントに基づく主体的な学び」として「サバプロ」の計画と実施を行う。実際の指導は3学年部を中心に進めている。

③ 総務部：校長・教頭・養護教諭・事務職員・技術員が所属。教頭が会を主宰し、主に管理面として施設設備の充実と予算の両面で健康教育を支えている。

(2) 学校保健・学校安全計画及び食に関する指導を実践する際の留意点

生徒の実態に即しながら、十分効果がある手立てについて吟味し教職員全体で確認しながら取り組んでいる。

また、本校が育成を目指す資質・能力である「主体性・コミュニケーション能力」を育てる視点で生徒会委員会活動を積極的に活用している。

その他、学校保健委員会については、学区の日比崎小学校と合同で実施することとしており、目標を「小学校・中学校のそれぞれ、学校保健安全の推進と向上をめざし、心身ともに健康な児童生徒の育成を図る。」として、健康教育、発育状況・各種健診結果・体力テスト結果の分析と課題、保健室来室の状況・欠席状況、感染予防対策などにおいて、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、PTA 役員と連携しながら取組を進めている。

4 カリキュラム・マネジメントを活用した社会に開かれた防災学習

(1) 活動のねらい

「サバプロ」は、1年生から3年生までを縦割り集団に分けて、3つのグループで学習を進める。各グループには、学年ごとにサバプロリーダーを置いており、その取りまとめは、3年のサバプロリーダーが行っている。リーダーを中心に、生徒自らが、学習の「計画」「実行」「まとめ」「報告」を行う。

「サバプロ」がねらう生徒に付けたい力は、総合的な学習の時間の評価の3つの観点に加えて、「危険予知能力」を加えた4観点とし、さらに本校が目指す資質・能力の2つ「主体性」と「コミュニケーション能力」であり、次の表1・2のように評価規準を作成している。

授業の展開の場面で(ミニホワイトボード等を使用して)	資質・能力	意欲・態度		知識・スキル		
		主体性 (自己を認識する力、自分の人生を選択する力)		コミュニケーション能力 (表現する力)		
レベル1	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 speak)	(聞く)	(やりとり)	○相手の話を打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	
レベル2	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 tell)	(聴く)	(やりとり)	○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	
レベル3	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。	(書く・話す・表現 talk)	(訊く)	(やりとり)	○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	
レベル4	やりたいことを自ら見つけ、分析し、(大人のカも借りながら)自分たちで実行できる。	少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。				

表1：日比崎中学校が目指す資質・能力

目標を実現するにふさわしい探究課題	探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	危険予知能力
防災教育(サバプロ)地域や学校の特色に応じた課題	災害の現状、原因及び防止方法等についての理解を深め、日常生活の中に潜む様々な危険を予測し、自他の安全に配慮して安全な行動をとるとともに、自ら危険な環境を改善することができる。 調査活動を、目的や対象に応じた適切さで実施できる。	現在及び将来に直面する安全の課題に対して、的確な思考・判断に基づき、適切な意志決定や行動選択ができる。 他者に自分の考えが伝わるように、目的に合わせて情報を分類したり、効果を意識した表現方法を組み合わせたりしている。	自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加し、貢献できる。 課題解決に向け、自分の特徴やよさに気づき、探究活動に進んで取り組もうとしている。 自他の意見や考えのよさを生かしながら課題解決に向け、協働して学び合おうとしている。	危険の認知および危険回避に必要な知識を安全確保に活用できる「情報活用力」と、潜在的な危険および接近した危険状態を認知するための「危険察知力」を身に付けている。 「安全能力の概念と構造」『安全教育学研究』第7巻第1号(2007)より

表2：探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力

(2) 計画と実践の状況

「サバプロ」の取組では、これから起こるであろう南海トラフ巨大地震を想定し、「南海トラフ巨大地震をみんなが何でも生き残るためにどうしたらいいのか」という課題を解決していくこととし、次のように取組を進めている。

①STEP 1 ゴールイメージを持ち、各団のテーマを決定（3年リーダー）

「災害に強い日比崎とはどんな地域か」「災害に強い日比崎を実現するためにはどんな活動が考えられるか」との問いを踏まえて、「各団でリーダーがアンケートなどを参考に3つ程度のテーマを考えよう」という活動を仕組んだ。そして第3回3年生リーダー会で考えてきた3つのテーマについて話し合い、テーマを1つに決定した。第4回ではさらにテーマについて深く考えさせるために、テーマと関連させて「団としてのねらい」と「その設定理由について」考え、実際に取り組みたいと思うことについて考えを交流させた。

②STEP 2 「サバプロ」設計図の作成：第一次案（3年リーダー）

第5回及び第6回3年生サバプロリーダー会で設計図の作成及び設計図のプレゼンテーションの準備を行った。各グループのリーダーたちがパソコンを活用して調べ学習をしたり、話し合い活動をしたりして設計図を作成した。



設計図について話し合う赤団リーダーたち



設計図の細部について協議している様子

4代目日比崎防衛隊 リーダー研修 '23 HIBIZAKI SURVIVAL PROJECT ~ () 団設計図~

() 年 () 組 () 番
氏名 ()

課題発見・解決学習の流れ

- ① サバプロこれまでの歩み
- ② 私たちのサバプロ【テーマ設定】
- ③ 全体設計図を作ろう【情報収集】
(各団で活動開始)
- ④ 研修会に向けて準備
- ⑤ 防衛隊研修会(外部・校内)
- ⑥ 研修会までの【整理・分析】
- ⑦ サバプロ準備
- ⑧ 私たちのサバプロ【実行】
- ⑨ 報告会【まとめ・創造・表現】

サバプロ 身につけたい力

『 **高くかかげよ ~夢と志を抱き、仲間とともに、高め合う~** 』

① 主体性 ② コミュニケーション能力 ③ 課題発見・解決学習

重点項目 団のねらい

防災の神になる!!~南海トラフの一撃から逃げきろう!!

【サバプロ活動①】 担当 ()

【タイトル】 **非常食を食べてみよう!!**

【ねらい】 **避難時の食事に安心と余裕を持って食べよう。**

【内容】 **かんづめなど栄養表示に気をつけてどんな栄養が入っているかを意識して作る。被災地で栄養かたれる非常食を食べる。**

【活動をするための不安材料】

- ・アレルギー
- ・材料
- ・費用

地域コラボ

【サバプロ活動②】 担当 ()

【タイトル】 **避難誘導、みんなが生き残るには~**

【ねらい】 **身の周りの体が不自由な人にもやさしさを伝えるようにする。**

【内容】 **視覚障害者、子供、高齢者などに、場所ごとに時間を計って順位を決める。たりきり、避難誘導の仕方などを、(区画)アイマスフ、ヘッドホン、車椅子、タイム実演し、助ける側と助けられる側のどちらも (場所) 体育館**

【活動をするための不安材料】

- ・人数の調整
- ・待っている人たちの暇
- ・ケガの可能性(安全性)

地域コラボ

【サバプロ活動③】 担当 ()

【タイトル】 **ロープの使い方で100種類あんなん♥**

【ねらい】 **どんな場面でロープワークが役立つのを知り、できるようにする**

【内容】 **避難する時、体をつなぐ結び方や避難時に洗濯物を干す時の結び方など役立つ結び方を覚えてもらう。やってみる。**

【準備物】 **ロープ、軍手、布**

【場所】 **教室 (区画) (3~4m x 7m) x 3**

【活動をするための不安材料】

- ・片付け方法

地域コラボ
自衛隊

【コラボ計画】活動(③)

(コラボ相手) **自衛隊**

(なぜ必要なのか)

地域コラボ

サバプロ設計図 第1案

③STEP 3 設計図のプレゼン（3年リーダー、教職員）

3年生、校長、教頭、サバプロ担当教職員に対して、プレゼンテーションを行った。第一次案段階では、抽象的で実現が難しい企画などへの質問が多くあったが、最初は特に制限をかけずに考えさせた。この会で示された質問に基づき、3年生のサバプロリーダーは第一次案の見直しを行った。

青団	赤団	白団
<ul style="list-style-type: none">・活動全体でかかる費用はいくらか。・地域の方に話を聞くなどの活動は考えてないのか。	<ul style="list-style-type: none">・ポリ袋ピザづくりに必要なリストを見せて欲しい。	<ul style="list-style-type: none">・カレーの材料はどうするのか。・研修会当日の時間配分を教えてください。

④STEP 4 計画の見直し：第二次案（3年リーダー）

各リーダーは、現実にはできる体験活動とは何か、実際どこまでのことができるかなどについて、アイデアが浮かばないなどの状況があったため、第二次案について、校長と直接相談する会を設けた。

⑤STEP 5 事前学習の準備・実施（全学年リーダー・全学年）

3年生のリーダーたちが設計図を大幅に見直して第二次案を作成し、事前学習（全校での総合的な学習の時間）全4時間を行った。事前学習は12月1日から2週間にわたり、縦割り集団で各学年のサバプロリーダーによる指導によって行われた。

⑥STEP 6 「サバプロ」体験学習の準備・実施（全学年）

青団（消火訓練、煙が充満した部屋からの避難）



消火訓練の様子



消防自動車見学の様子1



消防自動車見学の様子2

赤団（垂直式救助袋を用いた避難訓練・リアル脱出ゲーム）



垂直式救助袋に入る生徒



リアル脱出ゲーム（救助方法）



リアル脱出ゲーム（クイズ）

白団（防災運動会）



防災運動会の説明



防災運動会の様子1



防災運動会の様子2

⑦STEP 7 「サバプロ」体験学習報告会（全学年）

「サバプロ」全体を通して何をねらいにして、ねらいに迫るための課題を解決する方法を考え、実行し、そのことが生徒たちにどうであったのかについて、3年生のサバプロリーダーを中心に報告会の内容（発表原稿とスライド）を作成した。

5 成果と課題等

（1）成果の状況

資質・能力の「主体性」では、課題解決に向けて何をするのかを考えることに重きを置き、設計図の作成・見直しや事前学習への取組を評価することで、生徒の取組への意欲につながってきている。

【取組の中で成果として見られた生徒の姿】

- ・課題発見・解決学習を意識して取り組んでいる姿
- ・リーダー会や調べ学習で、自分の思いを発表し、相手の意見を聞こうとする姿
- ・リーダーとしてフォロワーの前で説明したり、指示をしたりする姿
- ・報告会の準備や報告会での発表・運営を楽しく行っている姿
- ・リーダーの説明や指示を集中して聞いている姿
- ・課題解決に向けて自分事として悩み、何とかしようと仲間と話し合う姿

（2）今後の課題と対策

①評価のさらなる充実

次年度の改善につなぐため、事後に評価指標についての生徒アンケートを実施し、集計と分析を行い、さらに充実した取組としたい。

②コミュニティ・スクール（学校運営協議会）を通じた地域連携の充実

「サバプロ」は、社会に開かれた教育課程づくりとして取り組んでいるため、さらに地域の方が様々な形で生徒と一緒に活動できるプログラムを作成していく。